

# ようこそ 図書館へ

第15号

2013年11月  
津市図書館

## おもな内容

P2～P3…図書館の仕事紹介  
P4…………レファレンス事例集  
P5…………知ろう私たちの郷土



「絵本の読み聞かせ講習会」  
平成25年6月7日・14日・19日・28日(津図書館)



「おりがみでおまごととおべとうづくり」  
平成25年7月14日(うぐいす図書館)



「子ども寄席」  
平成25年6月2日(久居ふるさと文学館)



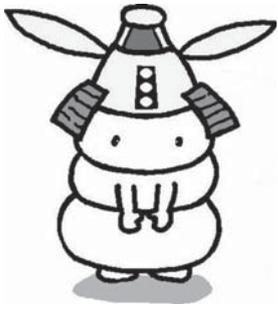
「おはなし会」  
平成25年7月21日(美里図書館)



「えほんカーニバル」  
平成25年8月7日(久居ふるさと文学館)



「しかけで楽しむ手づくり絵本教室」  
平成25年8月21日・28日(津図書館)

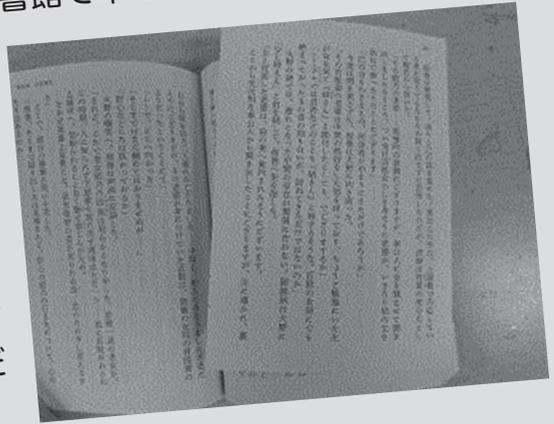


# 図書館の仕事紹介

図書館では、たくさんの本がみなさんに利用されています。一冊の本が何十回と貸出されることもしばしば。たくさん利用していただくと、どうしても本が傷んでしまいます。誤ってページを破いてしまったり、汚してしまったりということが出てくるものです。今回は、そんな本を発見したときに図書館が行う修理についてご紹介します。

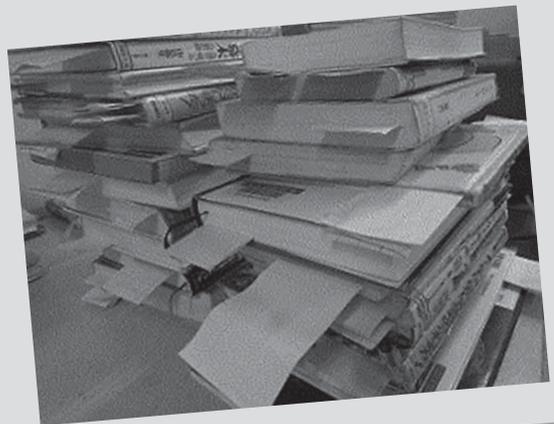
## ■ページ破れ

自分の本のページが破れると、セロテープを貼って直すという人が多いかもしれませんが、図書館ではセロテープは使いません。セロテープで修理をすると、そのときはきれいに直っても、年月が経過すると変色して汚れてしまったり、劣化してパリパリに剥がれてしまうからです。図書館で本の破れを修理するときは、本の修理専用のテープを使います。十年、二十年と本を保存し利用するために、将来にわたってきれいな状態を保てる道具を使うことが大事なのです。ですから、もしも図書館の本が破れてしまったら、自宅で修理せずにそのまま図書館に持ってきてくださいね。



## ■ページはずれ

ページのはずれは専用のテープを使うこともありますが、なるべく製本用の糊を使って修理します。糊の方が見た目がきれいに仕上がるのです。ソフトカバーの本の場合は、針と糸で綴じていく方法もあります。



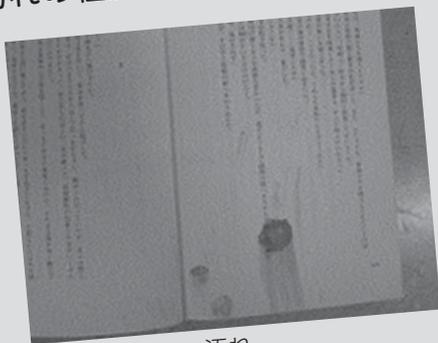
## ■水濡れ

水をこぼしてしまったり、雨でべたべたになったページがあるときは、水気を拭き取ったあと、重しを乗せたり板に挟んで万力で押さえたりして乾燥させます。こうすることで、乾いた後の波打ちを少しでも軽減できるのです。

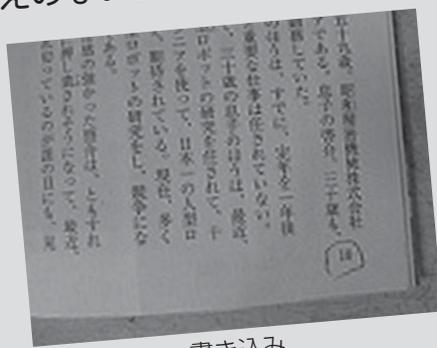


## ■汚れ・書き込み

汚れや書き込み、落書きは、残念ながらきれいにすることはできません。ページのごくごく端の方であれば、ヤスリで削ったりページ端を裁断したりしてなんとかきれいになることもありますが、多くはそういった処置ができない状態のものです。汚れや書き込みがひどく、気持ちよく利用していただけられない状態のものは、「汚れあり」などの表示をしてまたみなさんに利用していただきます。



汚れ



書き込み

他にも、本の傷み方はさまざまです。修理の基本はあっても、これさえ覚えればバッチリという方法はありません。それぞれの本の状態に合わせて、試行錯誤を重ねながらの作業となります。職員は先輩職員から修理の基本を教えてもらい、数をこなすことで修理の腕を磨いていきます。そして、こうすればもっときれいに直せるとか、この道具を使ったら作業しやすいといったいろいろな工夫を見出し、お互いに情報交換しています。すべては、一冊の本をたくさんの人に長く利用してもらうため。十年先も二十年先も、大事に読み継がれてきた一冊を新たに利用される方に手渡せるよう、今日も修理に取り組んでいます。

# レファレンス事例集

**Q** 津中学校について調べたい。

**A** 『津市史』第5巻(津市 1969 M231)によると、「津中学校」は県内初の中学校として明治十三年(1880)年一月に旧津藩有造館内に開校(赤塗りの旧門から赤門学校と呼ばれる)。明治十九(1886)年、古河の新校舎(現西橋内中学の地)に移転、明治二十(1887)年「三重県尋常中学校」に改称し、更に同三十二(1899)年には「三重県第一尋常中学校」、同三十四(1901)年に「三重県第一中学校」同年に「三重県立第一中学校」と改称する。大正八(1919)年に「三重県立津中学校」へ改称し、昭和九(1934)年に津市刑部に移転。戦中、空襲により全焼。戦後、昭和二十三(1948)年の新学制により男女共学の現津高等学校となった。その他資料として『歴史散歩 総集編』(津市 1999 M231)P28「津中学校と中山義秀」、『戦中戦後 津中から津高校へ』(塚澤正 2007 M376)

**Q** 2011年8月10日の中日新聞に、昭和20年1月に津上空でアメリカ軍が「ときはせまれり」という伝単をまいたという記事があるが、まいた日付をしりたい。

**A** 『1945年夏』(「一九四五年夏」編集委員会 2008 M960)、三重県津中学校2年生の戦争体験を記した文中に昭和20年3月に最初の空襲があり、やがて空襲予告にかわっていったと記述がある。また、同様に『戦中戦後 津中から津高校へ』(塚澤正 2007 M376)の「津市の空襲」の昭和20年3月12日の欄に「伝単」と言われる一種の降伏勧告のビラが米軍の飛行機から撒かれ始められたのもこの頃からであろうかとある。朝日新聞(昭和20年2月18日)縮刷版には、「ビラは必ず届け出ること。一枚といえどもこれを国土に存在させぬよう」とあった。また、『新国史大年表 第8巻』(国書刊行会 2012 R210.0)に内務省の敵の文書図書の出等に関する件公施行とあり、宣伝ビラなどの届出を義務付けているとあった。『戦場に舞ったビラ』(講談社 2007 210.7)に似たビラの写真は掲載があった。

**Q** 安東焼について知りたい。

**A** 安東焼は、万古焼の創始者の沼波弄山の弟端牙が、寛保年間(1741年から1744年)に旧安東村で始めたのが最初とされている。後、観音寺町から船頭町に移転し、その地名から阿漕焼と呼ばれるようになる。「安東焼」「再興安東焼」と呼ばれた時期がある。藩の再興事業でもあった。参考資料として、『津市史 第3巻』(津市 1961 M231)、『三重県の伝統産業』(三重県良書出版社 1979 M602)、橋本文庫『安東焼及其系統(L70-32)』、『歴史散歩 総集編』(津市 1999 M231)、『津市民文化 6号』(津市 1979 M231)

## ～図書館員のおすすめの本～

『なでしこ物語』 伊吹 有喜著 ポプラ社 三重県出身の作家による作品です。

体が弱く複雑な生い立ちで、いじめに苦しんでいる資産家の男の子と父を亡くし、母に捨てられ学校ではいじめにあっている女の子が周りの大人の温かい励ましによって顔を上げて歩き出すお話です。2人の家庭教師である青井先生が女の子に語った言葉が力強く心に沁みこんでいきます。読んでいる側もやっという気持ちにさせてくれます。青井先生の女の子への最後の授業をぜひ読んでほしいと思います。

## ～図書館員のひとりごと 親子～

夏休みも終わりに近づくと、自由研究や課題図書のコナーが賑やかになります。親子連れが多いのですが、親の焦りに反して子どもは気楽に図書館を楽しんでいます。「どれにするの?」とピリピリムードのお母さん。「どれでもいい」とよそ見をしながら答える子ども。しばらく問答が続いてやっと決まったのかカウンターにみえます。

そこで「ほんと、夏休みは親が大変」とため息。

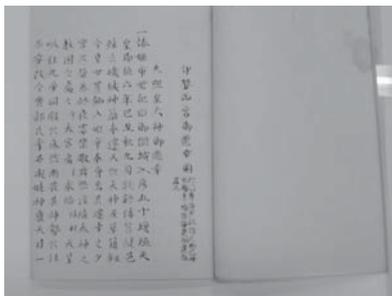
「あれ?うちの子は?」さっきまで横にいたはずのお子さんがいません。 「あそこで怪獣の本…読んでますよ。」

「…」 毎年見られる光景です。

# 知ろう私たちの郷土

津市の「藤方片樋宮」—倭姫命と三重県— 川上裕子

天照大神が現在のように伊勢に祀られる以前、崇神天皇の時代には天皇の皇女である豊鍬入姫命によって大和国(奈良県)の笠縫という場所に祀られていた。その後、更により良い場所を求めて全国を巡ることになり、垂仁天皇の皇女である倭姫命が御杖代(神に奉仕する人)として同行して鎮座と移動を繰り返して全国を巡り、最後は伊勢の地に落ち着いたとされている。その経緯を記した資料として、当館所蔵の特殊コレクションである「稲垣文庫」所蔵には『大神宮御遷幸圖』(請求番号 L17-28/写真1)や『倭姫命世記』(同L17-40, L17-41。「井田文庫」所蔵 L10-1)などがある。それらによると、伊勢の内宮に至るまでの間に巡った国は大和国や吉備国など数カ国、場所は数十か所に及んでいる。伊勢・伊賀国(三重県)では伊賀国隠市守宮(蛭子神社)や伊賀国穴穂宮(神戸神社)、桑名野代宮(野志里神社)、松阪飯野高宮(飯野高宮神山神社)、伊勢の伊蘩宮(磯神社)など多くの場所を訪れている。

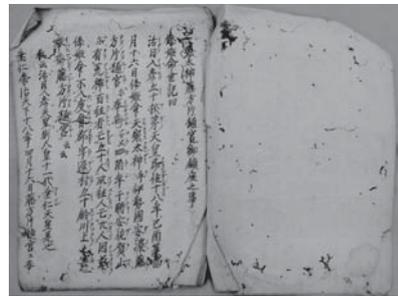


(写真1/大神宮御遷幸圖)

この時、津市の辺りには「藤方片樋宮」という宮が建てられ、天照大神を四年間祀ったと言われている。その跡地と言われているのが「加良比乃神社」である。この「片樋宮」の名前は、神殿建築の際に水利を便利にするために掛樋を通したことにちなむと言われている。「藤方片樋宮」の場所については様々な文献の記述から、「安濃郡」説と「一志郡」説がある。『三重県の地名』や『津市史』、『三重県神社誌』によると、この地が安濃郡と一志郡の境目に位置していること、『大神宮諸雑事記』という資料に「伊勢安濃郡」とあること、そして「加良比乃神社」が「片樋宮」の跡地とされていることから、津市の藤方がその場所である

と言われている。現在は伊勢街道を少し横道に入った所にあり、参道の入り口には津市の鋳物師である辻越後種茂が造ったとされる銅製の常夜燈が建っている。

さて、「稲垣文庫」には「片樋宮」についての資料として、『天照大神藤方片樋宮御鎮座之事』(同L17-46)という資料がある(写真2)。



(写真2/天照大神藤方片樋宮御鎮座之事)

全部で五丁から成るこの資料は、『倭姫命世記』の「片樋宮」に関する記述の部分抜粋し、それを参考にして考察したものである。最初に「倭姫命世記曰」として引用した後、「私云」として自身の考えを述べている。次に藤方や「片樋宮」についても同様に『世記』の記述から簡単な考察をしている。また、最後に伊勢神宮関係の書物の名前などを挙げている。そのことからこの資料は調べたことを書きつけた研究ノートのようなものと思われる。著者(不詳・稲垣定毅か)が何を参考にしたのか、どのように考察をしたのかの一面が伺える興味深い資料となっている。

## 主な参考文献

梅原三千・西田重嗣著『津市史』第五卷(津市 昭和36年)、三重県神社庁編・刊『三重県神社誌』(平成5年)、下中邦彦編『三重県の地名 日本歴史地芽衣大系24』(平凡社 昭和58年)、三重県教育委員会編・刊『伊勢街道 朝熊岳道・二見道・磯部道・青峰道・鳥羽道—歴史の道調査報告書—』(昭和62年)、乾淳子編『伊勢二千年ものがたり お伊勢さんと伊勢のまち—神宝鎮座から現代まで—』(伊勢志摩編集室 平成8年)



# 休館日・開館時間などの **ご案内**

※下記の休館日のほかに特別整理期間(年1回、14日以内)や、臨時に休館することがあります。詳しくは、図書館カレンダー、津市図書館ホームページなどをご覧ください。



携帯電話QRコード

津市図書館ホームページ  
携帯版ホームページ

<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp>

[http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/cgi-bin/Sopcstop.sh?p\\_mode=3](http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/cgi-bin/Sopcstop.sh?p_mode=3)

館名	開館時間	休館日
<b>津図書館</b> ☎229-3321 〒514-8611 西丸之内23-1 津リージョンプラザ内	平日 9:00～19:00 土・日曜日、祝・休日 9:00～17:00	火曜日 毎月最終木曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
<b>ポルタひさいふれあい図書室</b> ☎254-0464 〒514-1118 久居新町3006 ポルタひさいふれあいセンター内	平日 10:00～21:00 土・日曜日、祝・休日 10:00～18:00	
<b>芸濃図書館</b> ☎265-6004 〒514-2211 芸濃町椋本6824 芸濃総合文化センター内	9:00～17:00	
<b>安濃図書館</b> ☎268-5822 〒514-2326 安濃町東観音寺418 サンヒルズ安濃内	10:00～18:00	
<b>久居ふるさと文学館</b> ☎254-0011 〒514-1136 久居東鷹跡町2-3	平日 9:00～18:00 土・日曜日 9:00～17:00	火曜日 祝・休日(土・日曜日にあたる場合は開館) 毎月最終木曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
<b>河芸図書館</b> ☎245-5300 〒510-0314 河芸町浜田782	10:00～18:00	
<b>美里図書館</b> ☎279-8122 〒514-2113 美里町三郷51-3 美里文化センター内	9:00～17:00	
<b>きらめき図書館</b> ☎292-4191 〒514-0314 香良洲町2167 サンデルタ香良洲内	9:00～17:00 (7・8月の平日は 18:00まで)	
<b>一志図書館</b> ☎295-0116 〒515-2521 一志町井関1792 とことめの里一志内	10:00～18:00 (7・8月の平日は 19:00まで)	
<b>うぐいす図書館</b> ☎262-5000 〒515-2602 白山町二本木1139-2 白山総合文化センター内	平日 10:00～19:00 土・日曜日 9:00～17:00	
<b>美杉図書室</b> ☎272-8092 〒515-3421 美杉町八知5828-1 美杉総合開発センター内	9:00～16:30	

**本の返却は期限内に**

ようこそ図書館へ 第15号

発行日/平成25年11月1日 編集及び発行/津市教育委員会 津市津図書館  
三重県津市西丸之内23番1号 津リージョンプラザ内 ☎(059)229-3321